

チャイルド・ファンド・ジャパンだより

[スマイルズ] 2026年2月NO.59

SMILES

<https://www.childfund.or.jp>



特集 ～支援がつないだ未来～

フィリピンで育った “元チャイルド”たちの今



ChildFund
Japan

チャイルド・ファンド・ジャパンは、1975年より、アジアを中心に貧困の中で暮らす子どもの健やかな成長、家族と地域の自立を目指した活動をしています。

特集

～支援がつないだ未来～

フィリピンで育った “元チャイルド”たちの今

2025年、国際協力活動を始めてから50周年を迎えたチャイルド・ファンド・ジャパン。これまでに何万人もの子どもたちが支援を受け、学校を卒業し、社会へと羽ばたいていきました。

今回の特集では、50年間活動を続けてきたフィリピンで、支援を受けて今社会で活躍している元チャイルドたちに話を聞きました。

「私に届いた希望を、次の世代へ」
教師になって、子どもたちを支えるライカさん



フィリピン北部オーロラ州。山や川、緑の田んぼに囲まれた自然豊かな地域で生まれ育ったライカさん。「人々の生活は質素ですが、みんながお互いに協力しあいながら暮らしているような場所です」と話します。

幼いころのライカさんは、明るく好奇心いっぱいの子供。友だちと走り回り、歌やダンスといった課外活動にも積極的でした。勉強では算数や理科が大好きで、「新しいことを知ったり、発見したりすることが楽しみでした」と、学ぶことにとっても意欲的な子どもでした。



オーロラ州の支援地域の様子

しかし、7人きょうだいの5番目として育った家庭は、経済的にとても厳しく、その日食べる物が十分でない日もあったといいます。ライカさんは厳しい家計を支えるため、子どもでもできる仕事を探して、学校に通うためのお金を少しでもまかなおうと努力しました。「働かなければいけないときもあったけれど、勉強をあきらめたくなかったし、この逆境が私を強くしてくれたと思います」と当時の気持ちを話します。

そんなライカさんがチャイルド・ファンド・ジャパンの支援を受け始めたのは、彼女が12歳のとき。学用品や制服などのサポートにより、ライカさんは安定して学び続けることができるようになりました。

何より心に残っているのは、スポンサーさまから届く手紙だったといいます。「あなたのことを応援しています」というメッセージに、本当に励まされました。遠く離れた誰かの思いが、ライカさんに安心と活力を与えました。

支援によって学び続けることができたライカさんは、大学では理科教育を専攻。「世界のしくみを教えてくれる数学や理科が好きだったので、理科教育を選びました」。

そして教師となった今、ライカさんは子どもたちに学ぶことの大切さと楽しさを伝えています。

一番うれしい瞬間は、子どもたちの表情が変わるときだそうです。難しかった内容が理解できたとき、新しい発見に目を輝かせたとき——「その姿を見るたび、



理科の授業をするライカさん

教師になってよかったと感じます」。

かつて支援を受けた子どもが、今は次の世代の子どもを支える存在に。「私に届いた希望を、次の世代へつないでいきたい」と、ライカさんは支援のつながりを心にもちながら、今も子どもたちに向き合い続けています。



子どもたちの勉強を見守るライカさん

子どもリーダーとして自信をつけ、夢に向かうジェイさん



ジェイさんと村の様子

フィリピン南部ミンダナオ島の北サンボアンガ州に暮らすジェイさん。彼女がチャイルド・ファンド・ジャパンの支援を受け始めたのは2012年。小学3年生の頃でした。

家族は農業で生計を立てており、収入は安定しない日々。両親は農作業にほとんどの時間を費やし、ジェイさんたちきょうだいも、学校に行く前、行った後に農作業を手伝うのが当たり前の生活で



1975年から支援を開始したフィリピン。その年にスポンサーシップ・プログラムで支援を受けたチャイルドは67人でした。その後、皆さまのご支援に支えられ、支援する子どもの人数や地域を拡大。現在ではおよそ3,000人の子どもたちがスポンサーシップ・プログラムの支援を受けています。支援地域の総数は53カ所で、45カ所が自立をしました。支援を受けたチャイルドも34,000人を超えています。



支援を受けていた頃、早期妊娠の問題を訴える演劇で
主演を演じた

した。「お金を稼ぐって、本当に大変なんだと、身を持って実感していました」と語るジェイさん。学校で工作や裁縫などの課題が出されるたびに、「材料を買うお金をどうしよう」と胸が重くなったことを、今でもよく覚えているといいます。

チャイルド・ファンド・ジャパンの支援を受けることが決まってからは、そうした悩みが少しずつ軽くなっていきました。学用品を支給され、学校の課題で必要なものも支援によって提供してもらうことができました。健康診断や歯科検診、子どもの権利の研修などにも参加することができました。「自分だけでなく、家族にも地域にも役立つ支援でした」と話します。

中でもジェイさんが「忘れられない」と語るのは、「子ども会議」*の子ども代表に三度も選ばれたことでした。全国の各支援地域の子どもたちと交流した日々。「あの経験が宝物です」と目を輝かせます。この経験をきっかけに、村や市の子ども組織の会長にも選ばれ、教会でもリーダーとして活動するようになりました。ジェイさんは「支援を通

じて、リーダーシップも責任感も教わりました」と話します。

*フィリピンの各支援地域から代表の子どもが集まり、子どもの権利やそれを守るための啓発活動などについて議論する会議

その学びは、大学生活にもつながっていきました。今ジェイさんは、刑法などを学び、国家試験の勉強中です。「支援で自信がついたおかげで、今は面接などでも緊張しなくなりました。夢だった公務員にも近づいていると感じます」と前を向きます。将来は消防署で働き、家族を支え、地域に貢献することが目標だそうです。

もし支援がなかったらどうなっていたと思うか——そう尋ねると、ジェイさんは少し考えてから「たぶん、今も農作業をしていたと思います」と語りました。支援によって自らの夢に向かうことができたジェイさん。最後に、スポンサーさまに向けて「あなたの優しさは、確実に誰かの人生を変えています。私もその一人です。本当にありがとうございます」と話してくれました。



大学のシンポジウムで、司会を務めたジェイさん

国や地域のために働くゴドfreyさん



オーロラ州に暮らすゴドfreyさん。わずか7歳のとき、彼は両親と離れ離れになってしまいました。母親は、子どもを産んだ後の心理的影響で家庭を離れて治療をせざるを得なくなり、父親は、離

婚して新しい家庭を持つことに。彼と妹を育ててくれたのは、農業で生計を立てる祖父母でした。「祖父母の収入は限られていて毎日が不安でした。母のことが心配だったし、経済的に学校にも行けなく

なるんじゃないかと思うと、絶望的な気持ちでした」とゴドfreyさんは振り返ります。

スポンサーシップ・プログラムの支援を受けはじめたのは小学2年生の頃。「チャイルドに選ばれた瞬間、『学校に通い続けられる』と心が軽くなりました。また、支援を受けている間は、母への悲しみや不安が少しずつ薄れていきました」。特に、役に立った支援について尋ねると、真っ先に「教育支援」と答えました。「私以外にもたくさんの子もたちがこうした支援を待っていると知っていました。だから、自分が選ばれたことに感謝して、絶対に勉強を続けようと思いました。」

努力を重ねたゴドfreyさんは高校を無事に卒業して、大学では社会科教育を専攻。卒業後は、フィリピン社会福祉開発省や政府統計機関で働き、調査員やコーディネーターとしてキャリアを重ねました。現在は地元の有名レストランで、ITや人事などを担うスタッフとして活躍しています。



現在の職場でのゴドfreyさん

ゴドfreyさんには、今もたくさん夢があります。育ててくれた祖母を経済的に支え続けること。



祖母、妹となごやかに話すゴドfreyさん(写真左)

遠くに住む母のもとを頻りに訪れること。地域の協同組合で農業プロジェクト作りに参加すること。若者の活動にも関わりたいし、消防士として働く夢も描いています。そしていつか、自分の家庭を持ち、子どもたちが安心して育つ環境をつくりたいとも話してくれました。

最後に、支援者さまへのメッセージをお願いすると、こう語ってくれました。

「スポンサーさまのおかげで、私は希望を持つことができました。これから自分自身が家族を持ったときには、私は必ず責任を持って、子どもたちを支えていきます。地域で支援を必要とする子どもを減らせるように、私自身が良い親でありたい。」



スポンサーさまの名前を書いたプレートを手前掲げている

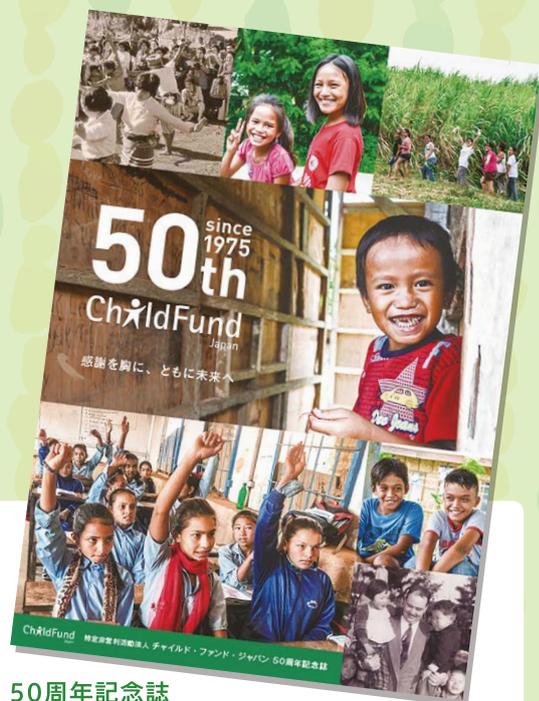
今回紹介した3人のように、皆さまのご支援によって、多くの子どもたちが夢をかなえ、社会へと歩みを進めています。そして、支援を受けた子どもたちは、「今度は私が次世代の子どもたちを支えたい」「地域のために貢献したい」と、支援の受け手から担い手へと変わっていています。それは、第二次世界大戦後、海外からの支援を受けて日本の子どもたちを支援していた私たちが、1975年に「今度は私たちが海外の子どもたちを支援する側へ」と国際協力の歩みを始めた思いに通じるものがあります。

これからも子どもたちを支え、そして、その子どもたちが支援の担い手へとバトンを受け継いでいけるよう、活動を続けてまいります。50年の活動によって、多くの子どもたちが支えられてきましたが、今も支援を必要とする子どもたちがたくさんいます。皆さま、引き続きのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

担当スタッフが振り返る

チャイルド・ファンド・ ジャパン 50周年記念事業

2025年、チャイルド・ファンド・ジャパンは、国際協力を開始して50周年を迎えました。今回は、記念事業として行ったそれぞれの取り組みについて、担当スタッフの一言とともに振り返ります。



50周年記念誌

記念誌

団体の歩みを記した記念誌を作成。現地のストーリー、座談会、年表などで構成しました。

「特別座談会に立ち会うことができました。団体の歴史と関わりの深い方々のお話を聞いて、私たちの活動の原点を改めて認識することができました。」(大原)

記念動画

フィリピン支援地域の実態や子どもの様子を撮影。スポンサーの方の思いもつづった動画です。

「今回の子どもたちの住む地域は治安が悪く、現地の人や警備の同行なしの訪問は危険です。そこを歩いて撮影した日本の撮影業者様が『子どもたちにとって学校がどれだけ安心できる場所かということがよくわかった』と振り返った言葉が心に残っています。」(寺澤)



撮影に協力してくれたチャイルド

記念イベント

10月11日にオンラインで開催。元支援チャイルドのインタビューなどをお届けしました。

「実は当日のリハーサルでは、元チャイルドの家のネットがまったくつながらない状態に！スタッフ全員青ざめましたが、フィリピン事務所スタッフの対応で、本番は無事につながり、元チャイルドの心あたたまる貴重なメッセージを聞くことができました。」(西川)



出演した元チャイルド

著名人メッセージ

歌手・俳優の郷ひろみさん、俳優・モデルの井桁弘恵さんからメッセージをいただきました。

「著名な方々への依頼は緊張の連続でしたが、お二人とも快く引き受けてくださいました。動画をきっかけにスポンサーになってくださった方もいらっしゃる、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。」(藤井)

記念募金

団体のこれからの50年を応援いただく募金に、多くの方がご協力くださいました。

「日頃よりご支援くださっている方はもとより、7年ぶりにご寄付をくださった方もいらっしゃる、あらためて長い歴史の中で多くの支援者さまに支えていただいたことを実感しました。」(藤井)



番外編

毎日社会福祉顕彰

団体の50年にわたる取り組みが評価され、「第55回 毎日社会福祉顕彰」を受賞しました。

「実はこの顕彰の存在を知ったのが、応募締め切りの3日前。推薦者が必要だったため、その日いらしていたボランティアさんに急遽お願いして、書類提出。その方で受賞できたといっても過言ではないくらいです！」(館野)

記念誌や記念動画、イベント報告などは、特設サイトをご覧ください！



フィリピン

ギマラス州の支援地域が 支援から自立しました！

チャイルド・ファンド・ジャパンは、1996年に、フィリピン・ギマラス州でスポンサーシップ・プログラムでの支援活動を開始しました。当初は100人のチャイルドから始まった支援は、徐々に拡大して8つの村へ広がり、累計で1,100人以上の子どもたちを支援することができました。栄養、教育、子どもの保護など、地域の課題に寄り添いながら、持続可能な仕組みを築いてきた29年間でした。

様々な支援を行った中でも、中心となったのは教育支援です。すべての子どもたちが学校に通い続けられるよう、学用品や制服、靴の提供などを行いました。コロナ禍では、自宅学習を支えるために教材を提供し、コロナ禍を過ぎてからは学習に遅れがある子どもに対する読み書きの補習支援も行いました。多くの子どもが無事に高校まで卒業することができただけでなく、2023年度には三分の一のチャイルドが学業優秀賞を獲得するなど、子どもたちの教育レベルも高い水準となりました。



大学も卒業し先生となった元チャイルドとその生徒

さらに、定期的な健康診断、歯科治療、医療費の支援などを通して、子どもたちの健やかな成長を支えました。コロナ禍では衛生キットの配布やワクチン啓発を行い、健康と安全を守る取り組みも続けました。子どもを暴力から守る「子どもの保護」の活動にも力を入れ、特に近年では、OSAEC (Online Sexual Abuse and Exploitation of Children - オンラインでの子どもの性搾取) から子どもを守るための研修などを行い、OSAECに関する現地のニーズを政策に反映させるための条例案も提出しました。

また、フィリピンは台風などの自然災害のリスクが高い国で、防災支援も重要です。ギマラス州では、家族ご

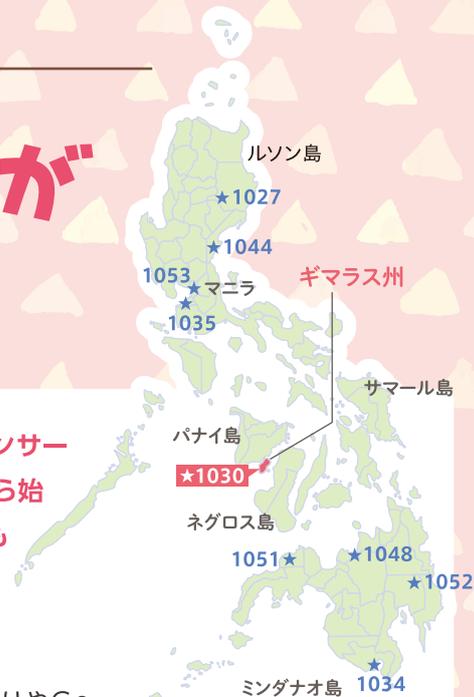
との防災計画づくりやGo Bag (緊急持ち出し袋) の準備、子どもたちによるハザードマップ作成、応急手当の訓練などを実施しました。こうした活動を通して、災害時に命を守る力が地域に根付いていきました。

支援からの自立を目指した組織づくりにも力を入れました。保護者による協同組合の活動をサポートし、お茶やジュースの製造、縫製、野菜販売などの生計向上事業を展開。組合員も764人まで増え、小規模資金を融資する「ピープルズバンク」も運営しています。また、子どもたちの組織も支援し、災害対策や環境保護、オンラインでの安全の啓発など、地域課題に取り組むリーダーを育成しました。



生計向上の一環として
食品加工の研修に取り組む保護者たち

皆さまのご支援によって、ギマラス州では、こうした多方面にわたる支援を届けることができました。これからも、協同組合や子どもたちのリーダーが中心となり、地域の課題に取り組み、子どもを支えていきます。ともに歩んでくださった支援者の皆さまに心より感謝申し上げます。



お知らせ

活動基盤強化のための法人格変更に向けて

チャイルド・ファンド・ジャパンは、皆さまに支えられ、50周年を迎えることができました。この節目を機に、私たちは関係者とともに、これからの団体のあり方について議論を重ね、先般、理事会および総会を開催し、現在の「特定非営利活動法人(NPO法人)」から「公益法人」へと、法人格の変更を進めていくことを決議いたしました。

公益法人は、社会に対する責任と透明性、内部統制や会計処理など、より質の高い組織運営・管理が求められる制度であり、活動の信頼性を社会に示すことができるものです。今回の法人格変更によって、私たちの活動をさらに社会に開かれた

ものとし、より多くの方にご参加いただき、子どもたちへより質の高い支援を届けていきたいと考えております。

実際の法人格変更の時期は、行政の認可などの関係で明確には定まっておりませんが、2026年7月以降となる見込みです。今回の変更は、あくまで法人格を変更するものであり、活動内容、皆さまからのご寄付の使い道などに、いっさいの変更はありません。寄付金控除につきましても、引き続き受けいただくことが可能です。

今後も子どもたちのために活動を行ってまいります。皆さまのご理解と引き続きのご支援をお願い申し上げます。

お知らせ

ご自宅の物品が寄付になります！

ご自宅に、書き損じたハガキや未使用の切手、古本、DVD、アクセサリなどはありませんか。チャイルド・ファンド・ジャパンでは、身近な物品の寄付を受け付けています。おうちのGoodsが世界のGoodに！物品寄付で途上国の子どもたちを支えることができます。

書き損じハガキ(年賀状、官製はがき)、未使用の切手



➡ 「チャイルド・ファンド・ジャパンの事務所」へお送りください。



〒167-0041
東京都杉並区善福寺2-17-5
チャイルド・ファンド・ジャパン ハガキ係

古本、DVD、ブルーレイディスク、CDアルバム、ゲーム



➡ 「チャリボン」へお送りください。
<https://www.childfund.or.jp/support/usedbook>

アクセサリなどの物品



➡ 「お宝エイド」へお送りください。
<https://www.childfund.or.jp/support/otakaraaid>

charibon



送料無料で
自宅まで
集荷！



家に眠る「お宝」でNPOに寄付できるプログラム
お宝エイド®



Ch^{id}Fund
Japan

Vision Mission

チャイルド・ファンド・ジャパンはここに掲げるビジョン(目標)、ミッション(使命)に基づいて活動します。

ビジョン(目標)

すべての子どもに開かれた未来を約束する国際社会の形成

ミッション(使命)

生かし生かされる国際協力を通じて子どもの権利を守る

チャイルド・ファンド・アライアンス

Ch^{id}Fund
Alliance

人種、宗教、性別、国籍を問わず世界の子どもたちに、効果的な支援活動をするためのネットワークで、子どもたちに向けたスポンサーシップ・プログラムを行う11団体から構成されています。チャイルド・ファンド・ジャパンは2005年4月に加盟しました。

チャイルド・ファンド・ジャパンだより **スマイルズ SMILES**

特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン
〒167-0041 東京都杉並区善福寺2-17-5
理事長／高橋潤 事務局長／武田勝彦
TEL. 03-3399-8123 FAX. 03-3399-0730
E-mail: inquiry@childfund.or.jp
URL: <https://www.childfund.or.jp/>

2026年2月発行
(デザイン)
モスデザイン研究所
(印刷)
吉原印刷株式会社